

神戸市ひきこもり地域支援センターについて

1. ひきこもり地域支援センターとは

生活困窮者就労準備支援等補助金事業のひきこもり支援センター設置運営事業として実施。都道府県・政令指定都市では、平成21年度より段階的に設置され、平成30年4月に全てで設置完了している。全国67自治体75ヶ所で設置済。

2. 神戸市の状況

平成21年10月にひきこもり対策を推進する中核機関として、ひきこもり地域支援センター「ラポール」を設置し、支援に取り組んでいる。

<事業概要>

委託先 特定非営利活動法人 神戸オレンジの会

設置場所 神戸市兵庫区羽坂通4丁目2-22

人員体制 センター長1名・ひきこもり支援コーディネーター2名
(精神保健福祉士、臨床心理士、公認心理師)

開所時間 火曜日～土曜日 10時～18時

業務内容 市内にお住まいのひきこもり状態にある方やその家族等からの電話・メール・来所・訪問（アウトリーチ）による相談業務と、相談内容によっては医療、教育、労働、福祉等の適切な関係機関につなぐなどの支援を行う。その他、連絡協議会の設置や情報発信、関係機関・市町村への後方支援の機能を担っている。

3. 相談実績

(1) 相談件数 (延)

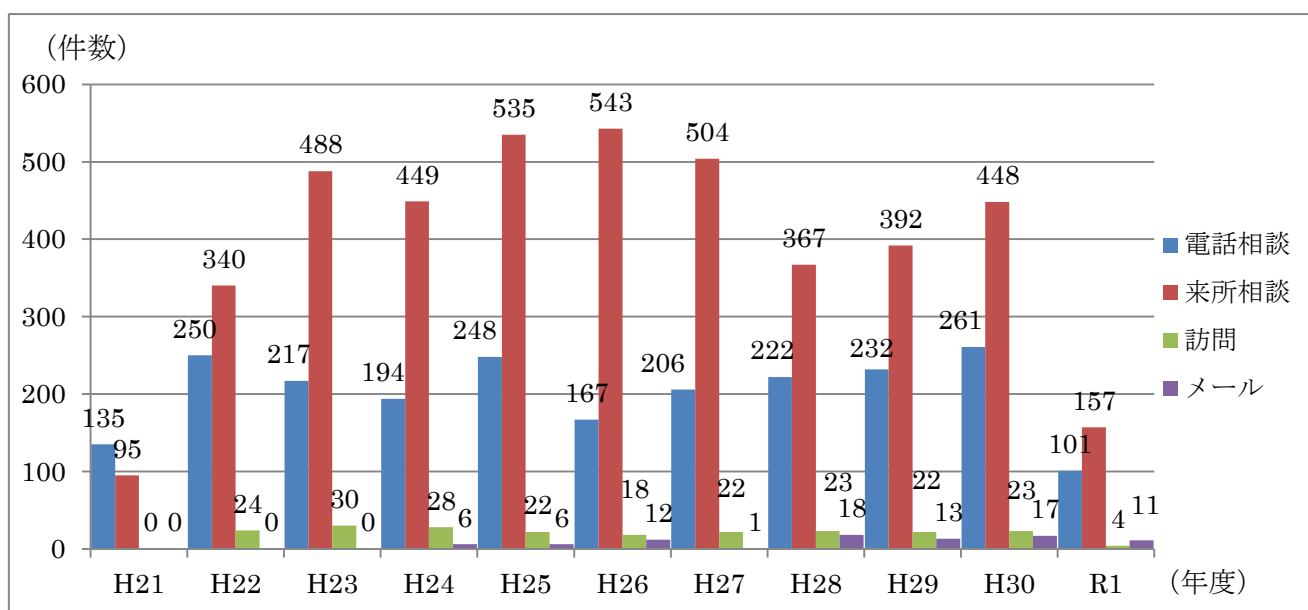
年度	電話相談		来所相談		訪問		メール		計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
H21	135	59%	95	41%	0	0%			230
H22	250	41%	340	55%	24	4%			614
H23	217	30%	488	66%	30	4%	0	0%	735
H24	194	29%	449	66%	28	4%	6	1%	677
H25	248	31%	535	66%	22	3%	6	1%	811
H26	167	23%	543	73%	18	2%	12	2%	740
H27	206	28%	504	69%	22	3%	1	0%	733
H28	222	35%	367	58%	23	4%	18	3%	630
H29	232	35%	392	59%	22	3%	13	2%	659
H30	261	35%	448	60%	23	3%	17	2%	749
R1	101	37%	157	58%	4	1%	11	4%	273

相談人員 (実)

年度	実人員
H21	112
H22	197
H23	147
H24	163
H25	184
H26	152
H27	153
H28	163
H29	173
H30	169
R1	87

※平成 21 年度は 10 月～3 月まで。令和元年度は 6 月まで。(以下同じ)

相談件数の推移



- ・ひきこもり地域支援センターでは「来所相談」が「電話相談」を上回っている。

ラポールによると、初回に電話相談を受けた後、来所を案内し面接での相談につなげており、来所相談では、複数回面接を行い、家族の想いを傾聴し本人への接し方の助言を行っているため。

- ・全国のひきこもり地域支援センターの相談件数の集計（平成 29 年度厚生労働省統計）では、「電話相談」と「来所相談」が、ほぼ同じ程度となっている（電

話 42,245 件、来所 43,839 件)。

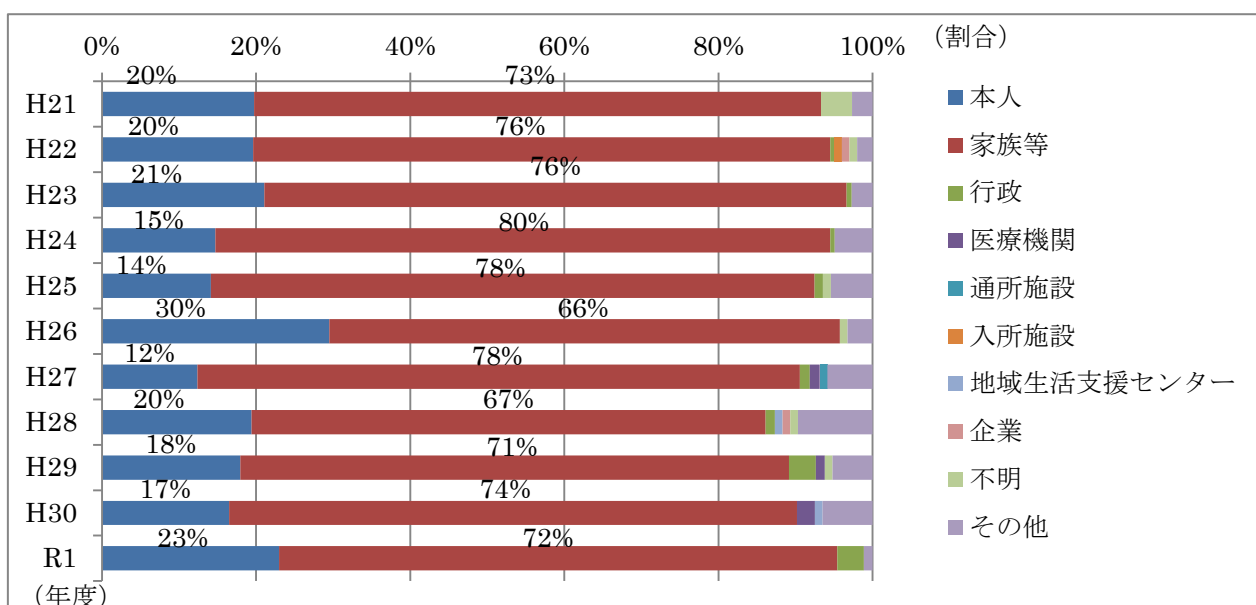
- ・延相談件数における「訪問等」の割合が、神戸市では 1.4% (平成 24 年度～平成 29 年度平均) であり、全国の平均 8.4% を下回っている。
- ・同期間を対象とした一人当たりの平均相談件数は、4.3 件であり、厚生労働省による全国集計の平均は 3.7 件となっている。

(2) 初回相談者

年度	本人		家族等		行政※1		医療機関		通所施設		入所施設		地域生活支援センター		企業		不明		その他※2		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
H21	22	20%	82	73%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	5	4%	3	3%	112
H22	39	20%	149	76%	1	1%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	1	1%	2	1%	4	2%	197
H23	31	21%	111	76%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	3%	147
H24	24	15%	130	80%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	8	5%	163
H25	26	14%	144	78%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	10	5%	184
H26	45	30%	101	66%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	5	3%	152
H27	19	12%	120	78%	2	1%	2	1%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	9	6%	153
H28	32	20%	110	67%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1	1%	1	1%	16	10%	163
H29	31	18%	123	71%	6	3%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	9	5%	173
H30	28	17%	125	74%	0	0%	4	2%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	11	7%	169
R1	20	23%	63	72%	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	87

※1 行政：保健センター、福祉事務所等 ※2 その他：知人、近所の住民等

初回相談者割合の推移

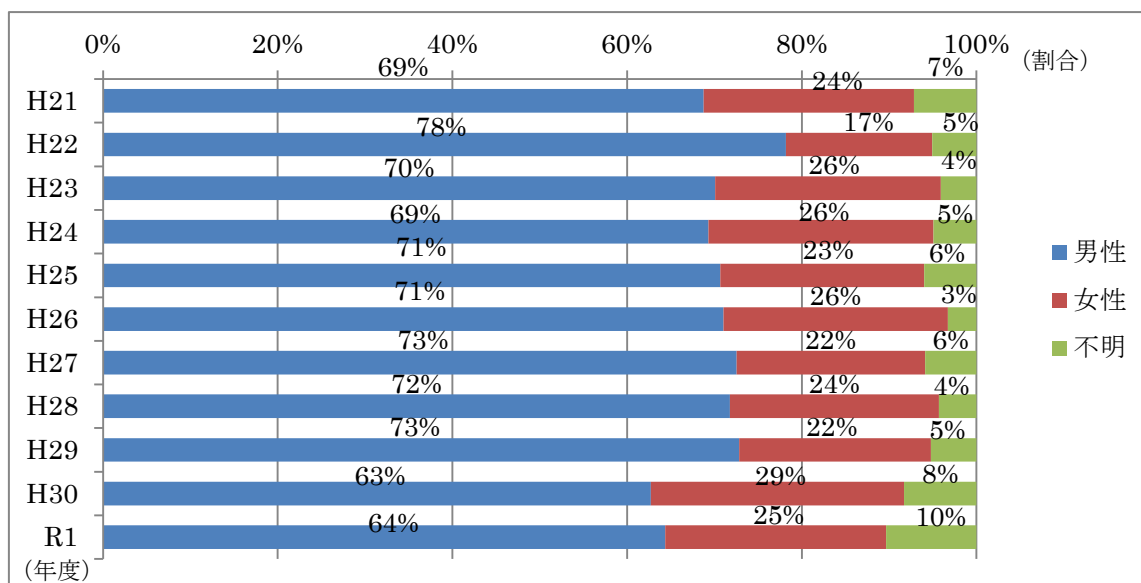


- ・初回相談は家族からの相談が最も多く、開設時から平均すると、73.8%となっている。また、本人からの相談は平均で19.0%となっている。

(3) 対象者性別

年度	男性		女性		不明		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
H21	77	69%	27	24%	8	7%	112
H22	154	78%	33	17%	10	5%	197
H23	103	70%	38	26%	6	4%	147
H24	113	69%	42	26%	8	5%	163
H25	130	71%	43	23%	11	6%	184
H26	108	71%	39	26%	5	3%	152
H27	111	73%	33	22%	9	6%	153
H28	117	72%	39	24%	7	4%	163
H29	126	73%	38	22%	9	5%	173
H30	106	63%	49	29%	14	8%	169
R1	56	64%	22	25%	9	10%	87

対象者性別割合の推移

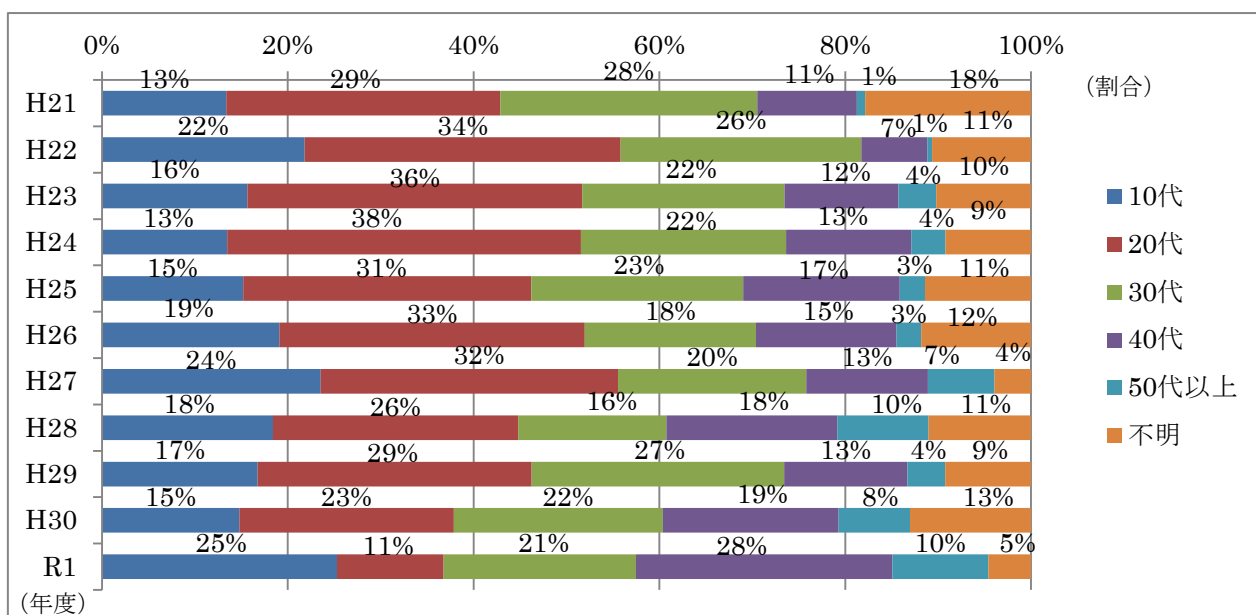


- ・対象者は男性が約70%であり、この傾向は開設時より続いている。
- ・内閣府による調査（平成30年度生活状況に関する調査※40歳～64歳対象）結果では、「広義のひきこもり群では、男性が3/4以上（76.6%）を占める」とされており、ひきこもり地域支援センターでも同様の傾向がある。

(4) 対象者年代

年度	10代		20代		30代		40代		50代以上		不明		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
H21	15	13%	33	29%	31	28%	12	11%	1	1%	20	18%	112
H22	43	22%	67	34%	51	26%	14	7%	1	1%	21	11%	197
H23	23	16%	53	36%	32	22%	18	12%	6	4%	15	10%	147
H24	22	13%	62	38%	36	22%	22	13%	6	4%	15	9%	163
H25	28	15%	57	31%	42	23%	31	17%	5	3%	21	11%	184
H26	29	19%	50	33%	28	18%	23	15%	4	3%	18	12%	152
H27	36	24%	49	32%	31	20%	20	13%	11	7%	6	4%	153
H28	30	18%	43	26%	26	16%	30	18%	16	10%	18	11%	163
H29	29	17%	51	29%	47	27%	23	13%	7	4%	16	9%	173
H30	25	15%	39	23%	38	22%	32	19%	13	8%	22	13%	169
R1	22	25%	10	11%	18	21%	24	28%	9	10%	4	5%	87

対象者年代割合の推移



- ・ 開設時より平均すると、20代：29.4%、30代：22.3%、10代：17.9%、40代：15.2%、50代以上：4.9%の順となっており、20代の相談が最も多かった。
- ・ 最近の特徴としては、平成28年より40代・50代以上の占める割合が増加しており、平成30年度では27%、令和元年度は38%となっている。

(5) 相談内容（平成21年10月～令和元年6月）

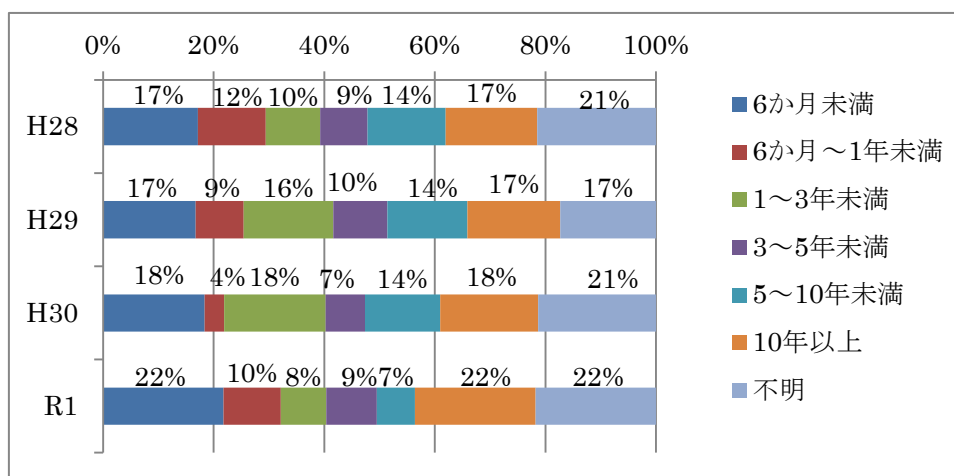
	相談内容	計
本人	これからどうすれば良いかわからない	1076
	就労したい	426
	進路相談	197
	とりあえず話を聴いてほしい	100
	人と関わる事に慣れていきたい	72
家族等	本人とどう接したら良いかわからない	964
	本人が働かない	533
	情報が欲しい(医療機関・支援機関)	353
	医療機関や相談機関へのつなぎ方	312
	外出するきっかけを与えたい	274

- ・各年度の相談の内、本人と本人以外（家族等）それぞれの上位5件を抽出し、更に相談内容の多い順に並べ替えた結果、上記の通りとなった。
- ・本人からの相談では、1位「これからどうすれば良いかわからない」、2位「就労したい」の順が多い。
- ・本人を除く家族等からの相談では、1位「本人とどう接したら良いかわからない」、2位「本人が働かない」の順が多い。
- ・どちらも就労に関する内容が2位となっており、「働くこと」に対する関心が高い。
- ・本人からの「これからどうすれば良いかわからない」という将来に対する不安の相談は各年度に共通して多く、今後の生活に対して不安を持っていることがわかる。
- ・家族等からの相談では、「情報が欲しい（医療機関・支援機関）」や、「医療機関や相談機関へのつなぎ方」など、医療などの情報を求める相談の割合が高くなっている。2つの項目の件数を合わせると家族等からの相談の第2位となる。
- ・ラポールによると、就労して自立したい気持ちはあるが、現実的にどのように対応すれば良いか悩んでいる方が多いのではないかとと思われる。家族も、本人に働いて欲しいとの希望は持っているものの、どのように接すれば良いか悩み、相談してきている方が多いのではないかとの意見。

(6) ひきこもり期間（平成 28 年度以降）

年度	6か月未満		6か月～1年未満		1～3年未満		3～5年未満		5～10年未満		10年以上		不明		総数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
H28	28	17%	20	12%	16	10%	14	9%	23	14%	27	17%	35	21%	163
H29	29	17%	15	9%	28	16%	17	10%	25	14%	29	17%	30	17%	173
H30	31	18%	6	4%	31	18%	12	7%	23	14%	30	18%	36	21%	169
R1	19	22%	9	10%	7	8%	8	9%	6	7%	19	22%	19	22%	87

ひきこもり期間割合の推移



- ・ 初回相談時までのひきこもり期間の平成 28 年度以降の平均は、6 ヶ月未満が 18.5%、10 年以上が 18.2%、1～3 年未満が 13.1%、5～10 年未満が 12.3%、6 ヶ月～1 年未満が 8.7%、3～5 年未満：8.7%の順に多くなっており、5 年以上が約 3 割を占めている。
- ・ 内閣府調査では、3～5 年の割合が最も高く 21%を占め、5 年以上が約 42%となっている。

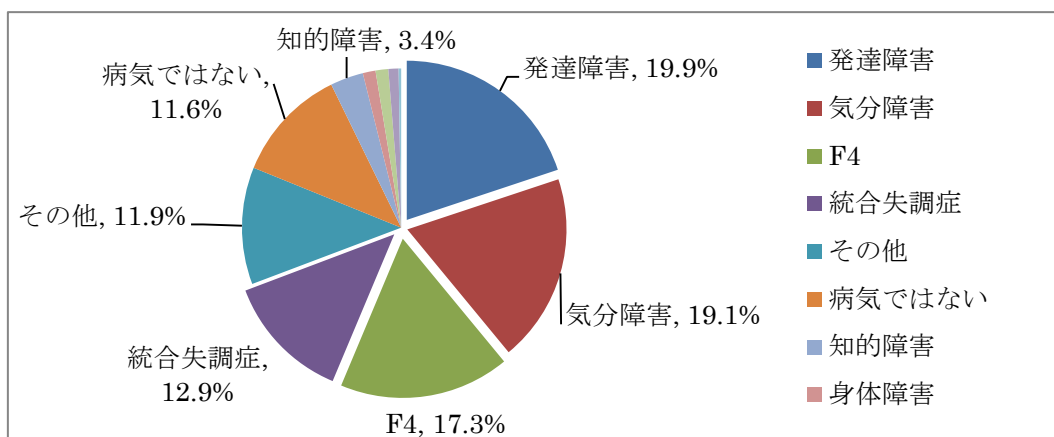
(7) 障害・診断名※一部重複あり

年度	障害・診断名がある																不明 (未受診含む)	計		
	精神障害等											小計	不明 (未受診含む)							
	F4※1					気分障害・ 感情障害	統合失調症	摂食障害	人格障害	アルコール依 存症	小計			発達障害	知的障害	身体障害			その他※2	病気ではない
	適応障害	不安・パ ニック	強 迫性障害	解 離性障害	P T S D															
H21	1	5	0	0	0	5	5	0	1	0	17	0	0	0	0	2	19	93	112	
H22	0	0	3	0	1	7	5	2	0	0	18	5	0	0	4	0	27	170	197	
H23	2	4	0	0	1	5	0	0	0	1	13	0	0	0	2	3	18	129	147	
H24	0	3	1	0	0	2	6	1	0	0	13	5	1	0	1	5	25	138	163	
H25	0	5	4	0	0	6	4	0	0	0	19	4	1	1	1	16	42	141	183	
H26	0	3	0	0	0	3	6	0	1	0	13	4	2	1	3	1	24	128	152	
H27	0	1	2	2	0	6	4	0	1	0	16	10	0	0	1	2	29	124	153	
H28	1	2	0	1	2	16	8	0	0	0	30	14	1	2	16	11	74	96	170	
H29	2	8	2	1	2	11	4	1	1	0	32	16	0	0	8	3	59	114	173	
H30	0	3	2	1	1	7	5	1	0	0	20	12	5	1	8	1	47	122	169	
R1	0	0	1	0	0	6	3	0	0	0	10	7	3	0	2	1	23	64	87	
計	6	34	15	5	7	74	50	5	4	1	201	77	13	5	46	45	387	1319	1706	

※1 F4：国際疾病分類（ICD-10）による分類。神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

※2 その他：不眠症、起立性調節障害等

不明（未受診含む）を除く障害・診断名の内訳



- ・開設時からの対象者1,706名（重複あり）の内、「障害・診断名」が明らかとなっている者が387名で全体の約23%となっており、その他の対象者は診断名が不明もしくは未受診である。
- ・「発達障害」（19.9%）、「気分障害・感情障害」（19.1%）、「F4（神経症性障害等）」（17.3%）、「統合失調症」（12.9%）の合計が「障害名・診断名がある」の約7割を占めている。
- ・開設時より「発達障害」が増加している。

(8) 関係機関へのつなぎ

- つなぎ先として「医療機関」が最も多く、次いで民間支援団体（家族会、居場所等）が大半を占めている。
- 全国のひきこもり地域支援センターの集計（平成 29 年度厚生労働省統計）では、精神保健福祉センター、民間支援団体、保健所・保健センターの順で多くなっている。